

日本紀標註

卷之二十一

和書門			
類	號	函	架
四三七八	二四三	一	二六
冊	架	函	冊

內閣文庫			
和書	類	號	冊
四三七八	二六	一	三九
冊	架	函	冊

(P+21)

內閣文庫	
番號	和 43718
冊數	26 (21)
函號	137 99



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



日本能登陸地...  
[Faint, mostly illegible text in vertical columns, likely bleed-through or ghosting from the reverse side of the page.]

原本卷首、日本書紀卷第二十六とあり、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

日本紀標注卷之二十一

齊明天皇

敷田年治謹注

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

天豐財重日足、天豐財重日足、天豐財重日足

○日本紀標注卷之二十一

○一

皇八、孝徳天皇  
 七月、皇后アマツヒツギシロシメス即天皇位、改元四年六月、  
 讓位於天萬豐日アメヨロツトヨヒノ天皇、稱天豐財  
 重日足姫天皇、曰皇祖母尊、天萬  
 豐日、天皇、後五年十月崩  
 元年春正月、壬申朔甲戌、皇祖母  
 尊、即天皇位於飛鳥板蓋宮、夏五  
 月庚午朔、空中有乘龍者、貌似唐  
 人、著青油笠、而自葛城嶺、馳隱膽  
 駒山、及至午時、從於住吉松嶺之

皇八、孝徳天皇  
 七月、皇后即天皇位、改元四年六月、  
 讓位於天萬豐日天皇、稱天豐財  
 重日足姫天皇、曰皇祖母尊、天萬  
 豐日、天皇、後五年十月崩  
 元年春正月、壬申朔甲戌、皇祖母  
 尊、即天皇位於飛鳥板蓋宮、夏五  
 月庚午朔、空中有乘龍者、貌似唐  
 人、著青油笠、而自葛城嶺、馳隱膽  
 駒山、及至午時、從於住吉松嶺之

神武紀不見  
 たり○住吉松  
 嶺へ、撰津国住吉郡ありて、むかし岸の松原と云し、天王寺より南阿部野道を  
 云、爰に嶺、字、ゆゑに、行れる人、彼笠著たる人、必葛城の一言主神、坐す  
 む○已卯十一  
 日○北下、原本  
 細字、北、越と  
 記し、東下、  
 東、陸奥と記せ  
 り、集解、私記  
 換入として、削  
 るるに從ふ○  
 柵養、持統紀、  
 陸奥国優嗜曇  
 郡、城養蝦夷と  
 あり、宇多郡と  
 云、る、○津川、  
 あり、陸奥国の郡名

上西向馳去  
 秋七月己巳朔己卯、於難波朝饗  
 北、蝦夷九十九人、東、蝦夷九十五  
 人、并、設百濟調使、一百五十人、仍、  
 授柵養蝦夷九人、津川蝦夷六人、  
 冠各二階、八月戊戌朔、河邊、臣麻  
 呂等、自唐還

○日本紀標注卷之二十一

〇二

已酉十三日○  
將以瓦覆原本  
擬將瓦覆本作  
ねり集解又改  
たるに従ふ、初  
宮殿の上代よ  
を、葺以て葺し  
を、瓦易むむと  
せ、一の、風俗の  
一變せし、扶  
桑略記持統十  
一年、條み、官舎  
始以瓦葺之と、  
あるぞ瓦葺の  
も、じゆあるべ  
き○朽爛ハ、皇  
國み為ざりし  
事を始むとを  
以、十二人、為才伎者、彌武遇疾而  
闕朝獻、新羅別以及、喰彌武、為質  
信仁、凡一蝦夷隼人、率衆内屬、詣  
遣使進調、百濟大使、西部達率余  
鳥川原宮、是歲高麗、百濟、新羅並  
作、是冬災飛鳥板蓋宮、故遷居飛  
擬造宮殿之材、朽爛者多、遂止弗  
起宮闕、將以瓦覆、又於深山廣谷  
冬十月、丁酉朔己酉、於小墾田造

市郡みて、神武  
紀又注しつ○  
石上ハ山邊郡  
みて、神代紀不  
見也なり○造  
垣上み、原本費  
損と有り、集解  
み削とるに從  
ふ○山椒ハ、山  
頂みて、スエト  
よむべきハ、大  
被詞み見也た  
て、文選月賦み  
山頂曰椒○自  
破、下、原本細字  
2、若據未成之  
時、作此謗乎の  
十字、下、後人  
工穿渠自香山、西至石上山、以舟  
二百隻、載石上山、石順流、控引於  
宮東山、累石為垣、時人謗曰、狂心  
渠、損費功夫三萬餘矣、造垣功夫  
七萬餘矣、宮材爛矣、山椒埋矣、又  
謗曰、作石山丘、隨作自破、又作吉  
野宮、西海使、佐伯連、栲繩、關位、小  
山下難波、吉士國勝等、自百濟還、  
獻鸚鵡一隻、灾岡本宮

○日本紀標注卷之二十一

○四

の所為疑ひおけまば削る○吉野宮ハ、應神天皇十九年ハ行幸ありて、雄略天皇二度行幸、其後久しく聞延ざれば、宮殿も荒果れむ故、作給ふ○西海使ハ、孝德五年、七月、條ニ注せるが如し○己丑三日、○觀貨邏國ハ、國、男一人、女四人、漂タビヨレリ泊于筑紫、言コト臣等初漂泊于海見嶋、乃以驛召ハニマラノス、辛丑、作須彌山像、於飛鳥寺西、且設孟蘭盆會、暮饗都貨邏人、或本云墮ト等、人云々、同六人、○南嶋奄美信覺云々、此嶋の事諸説多りまど、沖繩志云、今の大嶋ハ、古名を海見之と記せり、原琉球の属嶋ありしを、慶長十五年より、薩藩の所轄とあれりまどし之○辛丑十五日、○須彌山、推古紀ハ見延たり○孟蘭盆會の、盆ハ盆ハ、おあじ、翻譯名義集云、孟蘭盆、西域之語、轉、此翻倒懸、盆是、此方貯食之器、三

るゆゑ、神の咎、崇り給ひし實死、是年也大歳乙卯、○東部ハ、高麗、五族より、三曰東部、一名左部と、後漢書東夷傳ハ見延たり、百濟ハ、通也し云、るり○及、及、東國、通鑑ハ、新羅官十七等の中、第九セ級、伐、食と記し、同書百官公服、條ハ、略、て級、食と記せり、庚子八月○大歳衣縫造、姓氏録及史ハ、見延、天武十三年、紀ハ、内藏衣縫造、賜姓曰連とあり、ハ、此姓ハ、岡本ハ、大和國高市郡、岡村あり○紺慕の紺ハ、深縹ハ、事、孝德紀ハ、注

二年秋八月、癸巳朔庚子、高麗遣テ達沙等、進調大使達沙、副使伊九、利之、惣ハ八十一人、月、遣高麗大使、膳臣葉積、副使坂合部連磐イハ、鉞スキ、大判官、犬上君白麻呂、中判官、河内書首名、關小判官、大藏衣縫造麻呂、是歲於飛鳥岡本、

○日本紀標注卷之二十一

更定宮地時高麗百濟新羅並遣  
 使進調為張紺幕於此宮地而饗  
 焉遂起宮室天皇乃遷號曰後飛  
 鳥岡本宮於田身嶺冠以周垣  
 岡本宮舒明二太務  
 此云  
 岡本宮舒明二太務  
 年紀遷於飛鳥岡傍是謂岡本宮とあるに對て後字を加たり○田身嶺持統  
 紀又多武嶺小作り三代實録一に多武嶺墓在大和國十市郡志多武山一作  
 田身在郡東南高峰聳秀山木鬱蒼幽邃之地也○周垣下原本細字  
 小田身山名とあり此山名と云二字ハ後人の所為と疑ハれる  
 兩槻宮大和志  
 古蹟多武峯  
 西北有地名根  
 槻○香山ハ十  
 復於嶺上兩槻樹邊起觀號為兩  
 槻宮亦曰天宮時好興事迺使水

藏云羅百味式頁三尊仰大眾之恩光救倒懸之窘急義當救倒懸云々此佛會  
 今年七月十五日修之推古十四年紀四月八月七月十五日設齋と  
 云るを始として此年頃より世々博行しれりや太政官式凡七月十五日  
 孟蘭盆供養送諸寺命史檢校云々以此事不支那人ら評り其一二七記べ  
 し事物紀原今世每七月十五日營僧尼供謂之孟蘭齋者按孟蘭經曰目連母  
 亡生餓鬼中佛言須十方衆僧之力至七月十五日具百味五果以著盆中供養十  
 方大德後代廣為華飭乃至割木割竹極工巧也今人第以竹為圓架加其首以荷  
 葉中貯雜饌陳目連救母畫像致之祭祀之所失之遠甚矣琅邪代醉編云七月十  
 五日孟蘭盆說皆主佛經目連救母於是日以百味著盆中供佛然不知何謂孟蘭  
 盆也及讀釋氏要覽云孟蘭猶華言鮮倒懸以有救母之說矣而盆字又無著落問  
 之博識不知也後見老學庵筆記云故都於中元具素饌享先織竹為盆孟狀貯紙  
 錢於中承之以竹迨焚倒以視方隅而占冬之寒暖謂之孟蘭盆乃知風俗祀先全  
 無佛氏之意云々猶文長亦略此餘是彼不見也云々  
 云云○墮羅人天武四年紀云墮羅女見也彼處注云云  
 有間皇子ハ孝  
 德天皇の御子  
 ○陽狂云ウホ  
 リクルヒと訓  
 九月有間皇子性黠陽狂云云往  
 年婁温湯偽療病來讚國體勢曰

○日本紀標注卷之二十一

めるハ、例て名  
 らざれど、陽字  
 ふ叶る古言ハ、  
 めて○牟婁ハ、  
 紀伊国の郡名  
 ○經、日本靈異  
 記、總、比多太  
 と注せり、僅と  
 云、不當古言  
 之○蠲消セノ  
 ゴコリと、よめ  
 るハ、除の物言  
 あり○間人連、  
 推古紀、見、  
 たり○津臣ハ、  
 敏達紀、注、  
 了○偃倭ハ、俗  
 子背倭と云る

纒觀彼地、病自蠲消云云、天皇聞  
 悦、思欲往觀、是歲使使於新羅、曰  
 欲將沙門智達、間人連御廐、依網  
 連稚子等、付汝國使、令送到唐、新  
 羅不肯聽、送、由是沙門智達等還  
 歸、西海使小華下、阿曇連頰垂、小  
 山下津臣偃倭、俱偃、磨、自百濟  
 還、獻駱駝一箇、驢二箇、石見國言  
 白狐見

ものふて、是セクツマと云、クツマ、新撰字鏡、倭又降背セ、世久豆と注し、即  
 背倭、夫木集十九子、久方の天津ミ空ハ、高ク、セ、セ、セ、セ、セ、セ、セ、セ、セ、セ、  
 小すむ、躑、字セ、グ、ムとよめるも、ねお、クツマのマ、え、曲、切此人ハ、降背  
 子、や、何、マ、ク、む、○駱駝も、驢も、推古紀、見、色、○白狐、續紀、八、養老、五年、正月  
 甲斐國、獻、白狐、治部式、  
 白狐、上瑞、載、たり  
 丙申、十三日、  
 德太臣、公卿、補  
 任、在、官、十年  
 歲、六十六、  
 田ハ、出羽、國、の  
 郡名、和名  
 抄、秋、田、按、  
 上代ハ、齧、田、と  
 濁音、云、々、  
 續紀、十一、  
 秋、田、村、高、清、水、  
 岡、日本、後、紀、十

四年春正月、甲申朔、丙申、左大臣  
 巨勢、德太臣、薨、夏四月、阿陪臣  
 率、船師、一百八十艘、伐蝦夷、齧田  
 淳代、二郡、蝦夷、望、怖、乞降、於是、勅  
 軍、陳、船、於、齧田、浦、齧田、蝦夷、恩、荷  
 進、而、誓、曰、不、爲、官、軍、故、持、弓、矢、但

○日本紀標注卷之二十一

六



二、秋田城建  
 置おど、惣て清  
 音お唱、今も然  
 〇淳代今郡  
 名お八聞む、續  
 紀三十一、出  
 羽国賊地、野代  
 湊と見こ、今野  
 城と書りり、〇  
 齧田浦神詳お  
 らず、土人子問、べし、知矣とい、答給ふを云、〇有間濱、詳おらば、〇渡嶋ハ函館以  
 北、唐太嶋、五、たる惣名、持統紀、越度、嶋、蝦夷、續紀、北六、渡嶋、蝦夷、秋早、効丹  
 心、日本後紀、廿、渡島、秋、二百餘人來、三代實錄、廿七、出羽、国言、  
 渡嶋、荒狄、反叛、水軍、八十艘、秋、略、秋、田、鮫、海、兩、郡、百、姓、二、十、一、人、  
 建王ハ、天智天  
 皇の御子おて、  
 紹運録、建、研  
 皇子お作きり  
 起、殯、而、收、天、皇、本、以、皇、孫、有、順、而  
 五月、皇、孫、建、王、八、歲、薨、今、城、谷、上  
 聚、渡、嶋、蝦、夷、等、大、饗、而、歸  
 代、津、輕、二、郡、郡、領、遂、於、有、間、濱、召  
 官、朝、矣、仍、授、恩、荷、以、小、乙、上、定、淳  
 奴、等、性、食、肉、故、持、若、爲、官、軍、以、儲  
 弓、矢、齧、田、浦、神、知、矣、將、清、白、心、仕  
 〇淳代今郡

〇今城谷、大和  
 志吉野郡、條、小  
 建王殯冢、在今  
 木村、今日法、具  
 良冢、〇伊磨紀  
 那屢ハ、在今來  
 なり、〇乎武例  
 我禹杯爾ハ、大  
 和志、小、吉野郡  
 今木村上方、有  
 乎武例山、昔隸葛上郡、〇俱謨、娜尼母ハ、雲たふもよて、娜尼ハ助辭、〇旨屢、俱之  
 多、多、婆、ハ、炳、發、者、おて、之、ハ、助、辭、万、葉、十、一、小、雲、谷、灼、發、意、追、見、作、爲、及、直、祖、原、本  
 屢、居、小、誤、れ、也、秋、紀、に、據、て、証、す、〇那爾、柯、那、皚、柯、武、ハ、何、將、嘆、之、一、首、の、意、ハ、  
 皇子を葬し、山、雲、と、立、む、其、を、見、て、嘆、き、を、止、む、る、と、も、有、む、と、之、秋、紀、小、見  
 殯、葬、之、煙、悲、歎、無、類、と、注、せ、る、ハ、非、之、火、葬、ハ、文、武、天、皇、以、前、小、ふ、り、り、し、と、云、  
 小、心、着、ざ、り、し、之、原、本、那、と、郡、小、作、き、り、今、秋、紀、小、ふ、り、て、改、む、次、な、る、も、同、  
 伊、喻、之、々、乎、秋  
 紀、小、射、鹿、也、私  
 伊、喻、之、之、乎、都、那、遇、何、播、杯、能、倭  
 〇日本紀標注卷之二十一  
 七

記曰言被射之  
 鹿也と注せり  
 ○都那遇何播  
 杯能ハ認川方  
 之みて杯ハ此  
 紀ハ清音ハよ  
 める例ハ扱つ  
 あぐとい尋る  
 意マて鹿の落  
 たる血又ハ足  
 跡ハど伏あるして尋行を云、人丸集ハとゆゆらむつぶさハ跡をさしらずと  
 も鹿のえらるハあるといふありとあるハカリ成、和名抄ハ鹿血をよめり万  
 葉十六ハ所敷鹿乎認河邊之、和草とあるハ此御歌をとりた、認字を字鏡集  
 色葉字類抄等ハツナグと注せり、是を繫と解けるハ非之○倭柯矩婆能ハ若  
 草之みて上ハ射られたる鹿の行方を認來たる川方とつゞけ、其川方ハ生左  
 る若草と云て、次句を呼出むたれみ、説たる詞をれば、全序ある事を知るべし  
 ○倭柯俱阿利岐騰ハ若在、きとみて、勿雅ハ在しとみて、原本騰を騰ハ誤と  
 今秋紀ハ據る○阿我謨婆難俱爾ハ、我、不思、延、たり、秋紀ハ建、雖、幼、稚、有、老、成

柯矩婆能倭柯俱阿利岐騰阿我  
 謨婆難俱爾其阿須箇我播瀨  
 蟻羅毗都喻矩瀨都能阿比娜  
 皇時時唱而悲哭  
 謨難俱母於母保喻屢柯母三天

之意、弥追、感慕也と注せり○阿須箇我播ハ、飛鳥川あり○瀨難蟻羅毗都々ハ、  
 漲ハの延語、即水霧も、水ハ勢ハる状を云、○喻矩瀨都能ハ、逝水之みて、次  
 句を起、ため、説、給、ハ、是、ハ、早、世、ハ、寄、る、ハ、ど、説、ハ、る、ハ、○阿比娜謨難俱  
 母ハ、間も無、み、て、流、る、水、の、絶、間、ハ、き、如、の、意、ハ、母、ハ、助、辞、○於母保喻屢柯母ハ、  
 所念哉なり○  
 甲申四日○或  
 本原本、或所ハ  
 作れ、今集解  
 改、たるハ從  
 〇建武ハ、初  
 位あり○銷旗  
 秋紀ハ、私記云、  
 師説未詳其牀、  
 師後説云、今現  
 在此旗之頭、如  
 銷故名云々○  
 都波沙羅ハ地  
 名○滄足ハ、孝

秋七月辛巳朔甲申蝦蟇二百餘  
 詣闕朝獻饗賜贍給有加於常仍  
 授柵養蝦夷二人位一階滄代郡  
 大領沙尼具那小乙下或本云授  
 檢戸少領宇婆左建武勇健者二  
 人位一階別賜沙尼具那等銷旗  
 二十頭鼓二面弓矢二具鎧二領

○日本紀標注卷之二十一

德紀み見止た 授津輕郡大領馬武大乙上少領  
 ○沙奈具那 青蒜アヲヒルニ小乙下勇健者二人位一階  
 那み作りり ○ 別賜馬武等銷旗二十頭鼓二面  
 檢覆新撰字鏡 留と注し欽明 紀み考察又と  
 本靈異記み探 弓矢二具鎧二領授都岐沙羅柵  
 造ミヤコ名ミヤコ關位二階判官位一階授淳足  
 柵造大伴君稻積小乙下又詔淳  
 古今著聞集八 代郡大領沙奈具那檢アチカラ覈シム蝦夷戶  
 隱れたるみ 口與虜戶口是月沙門智通智達  
 云々和訓栞み 奉勅乘新羅船往唐國受無性衆

生義於玄奘法師所  
 意くるり穿鑿 智通元亨叔書智通傳み齊明四年七月共沙門智達入唐謁三藏

法師玄奘學唯識 ○玄奘翻譯名義集み玄奘河南洛陽人俗姓陳氏潁川陳仲弓  
 之後鳩車之齡落髮竹馬之齒通玄と 冬十月庚戌朔甲子幸紀温湯天

甲子十五日 ○ 耶麻古曳底ハ 皇憶皇孫建王愴爾悲泣乃口號  
 山越而ハ ○ 于 曰耶麻古曳底于彌倭施留騰母  
 於母之樓枳 須羅庾麻自珥其  
 會て見るべし 於母之樓枳伊麻紀能禹知播倭  
 於母之樓枳 須羅庾麻自珥其  
 所念ホとるもたおじ遊仙窟み忽然心裏愛ミ不覺眼中憐ミ此おもしるき杖笑ハベ

きといのみ思ふぬるハ、後世心ニ、故紀中不可怜てもよめり。伊麻紀能高知播ハ、今來内者なり。○倭須羅庾麻自理ハ、忘るゆへ、今乃の延たるニ、原本度ヲ庚み誤まり、釈紀ヲ據テ改む、又自百に誤まり、憶断セ以テ改つ、然、み注者レのく、音改、れど、音ハ清音おれ、バ、何らむ。

添離度能ハ、添  
 之ハ、四言の  
 句、○于之  
 哀能矩娜利ハ、  
 潮之遣、方葉  
 十四、多母登  
 乃久太利麻欲  
 比伎爾家利、と  
 あるも、袂の遣  
 と聞、○  
 于那俱娜梨ハ、  
 海邊あり、扱潮、  
 邊海邊みても、忘れがたきと云て、次ヲ起し、後、○于之廬母俱例尼ハ、惜も聞み、後撰集み、別ををえ、うなし、あもの、と聞し、らど、うしろ、安くも、おもハ

於世 秦大藏造萬里、日傳斯歌、勿令忘  
 柯枳古弘、餞岐底、阿武、其詔  
 廬母俱例尼、飡岐底  
 于之廬母俱例尼、飡岐底  
 于之廬母俱例尼、飡岐底  
 于之廬母俱例尼、飡岐底  
 于之廬母俱例尼、飡岐底  
 于之廬母俱例尼、飡岐底

ゆるお、續紀北六、都々牟事無久、字志呂毛輕久云々、愍テ情の意不て、潮と云て、ウシ口とよみ續け、後、ハ、り、原本例を側み誤れ、今、釈紀に據る、○餞岐底阿武ハ、置テ、行、み、皇子、今來、置テ、行、もと、○、原本、阿武、ハ、阿武、誤れ、今、釈紀、ハ、一、首、上、著、れ、て、何、も、と、○、于、都、俱、之、枳、ハ、愛、き、あり、○阿武、倭、柯、枳、古、弘、ハ、朕、之、稚、子、我、なり、○、飡、岐、底、阿武、ハ、上、お、ふ、と、○、秦、大、藏、造、姓、氏、録、ミ、秦、長、藏、連、太、秦、公、同、祖、融、通、王、之、後、也、古、語、拾、遺、ハ、齋、藏、之、傍、更、建、内、藏、分、收、官、物、仍、令、阿、知、使、主、與、百、濟、博、士、王、仁、記、其、出、納、始、更、定、藏、部、云、々、秦、氏、出、納、其、物、東、西、文、氏、勘、録、其、簿、是、以、漢、氏、賜、姓、為、內、藏、大、藏、令、秦、漢、二、氏、為、內、藏、大、藏、主、鑰、藏、部、之、錄、也、と、云、是、大、藏、と、号、し、以、至、我、知、る、べ、し、

十一月、庚辰朔、壬午、留守官、薙我、赤兄、臣、語、有間、皇子、曰、天皇、所治、政事、有三、失、矣、大起、倉庫、積聚、民、財、一也、長穿、渠水、損費、公糧、二也、

○日本紀標注卷之二十一

駕不在京則置留守○甲申五日○夾膝和名抄小漢制天子玉几公侯皆以竹木為几和名於之萬都岐○相崇神紀み知其歌惟と何るおおふじ○物部朴井連鮪の孝德紀み物部朴井推子と云人何見併見るべし○市經大和志平群郡又一分村有り是り○戊子九

於舟載石運積為丘三也、有間皇子、乃知赤兄之善已而欣然報答之曰、吾年始可用兵時矣、甲申、有間皇子向赤兄家登樓而謀、夾膝自斷、於是知之不祥、俱盟而止、皇子歸而宿之、是夜半、赤兄遣物部朴井連鮪率造宮丁圍有間皇子於市經家、便遣驛使奏天皇所、戊子、捉有間皇子、與守君大石坂

日○守君景行紀み注せり○坂合部連天武元年近江軍み屬て斬きたる境部連藥の同人之原本合字又脱せり○塩屋連孝德紀み見込とぞ○新田部未麻呂姓氏録み新田部宿祿安寧天皇皇子磯城津彦命之後也天武十三年紀み新田部連賜姓曰宿祿未麻呂叙紀み米麻呂み作とり○謀及ハ御門傾人律の八盧子一日謀及注み謂謀危國家云々原本反て人み誤れり○天與赤兄知り皇子素より罪ふきハ天津神と蘇我赤兄知りると赤兄何らふじハ謀反を勧め已反て皇子を捉えぬより、姦惡極れてと云べし

合部連藥塩屋連鮪魚送紀温湯舍人新田部未麻呂從焉於是皇太子親問有間皇子曰何故謀反、答曰天與赤兄知吾全不解、庚寅遣丹比小澤連國襲絞有間皇子於藤白坂是日斬鹽屋連鮪

○日本紀標注卷之二十一

○十一

て因處を去ら  
ず○藤白坂の  
通證、海部有  
田兩郡之塚也  
と云、万葉九  
十、藤白之三坂  
乎越跡、白拷之  
我衣手者所沾  
香裳とある、皇子と思むたる歌、同二、有間、皇子自傷結松枝、歌、磐石乃濱  
松枝乎引結、真幸有者、亦還、見武、長忌寸意吉麻呂、見結松、哀咽歌、磐代乃野中爾  
立有結松、情毛不鮮、古所念、の磐代も同地の如聞ゆれど、海部郡直南、在田名  
草、近所、藤代と云て、藤代峠てふ山もあり、又日高郡海邊、岩代てふ村あり  
とて、東西、分とたり○令右手作國寶器、按、此人の物を作  
る、巧あり、む故、右手を、世に存、お、の、意あるべし  
守大石、君、字、或、本、云、有、間、皇子、與、蘇、我、臣、赤、兄、  
の脱たる傳、之、塩、屋、連、小、戈、守、大、石、坂、合、部、連、藥、  
○短籍、の、拈、文、取、短、籍、ト、謀、反、之、事、或、本、云、有、間、  
あり、續紀、十、五、皇、子、曰、先、燔、宮、室、以、事、五、百、人、一、日

賜酒食、因、令、採、兩、夜、邀、牟、婁、津、疾、以、船、師、斷、淡、路、  
短籍、書、以、仁、義、國、使、如、牢、圖、其、事、易、成、人、諫、曰、不、  
禮、智、信、五、字、隨、可、也、所、計、既、然、而、无、德、矣、方、今、皇、  
其、字、而、賜、物、云、子、年、始、十、九、未、及、成、人、可、至、成、人、  
云、是、の、通、證、不、而、得、其、德、他、曰、有、間、皇、子、與、一、判、  
採、籤、也、と、云、牟、婁、津、播、磨、自、斷、其、謨、不、止、  
○牟婁津、播磨、自、斷、其、謨、不、止、  
國、損、保、郡、不、室、遂、被、誅、戮、也、  
津、河、れ、は、是、ふ、や、と、思、ど、猶、紀、伊、國、牟、婁、郡、の、津、あ、る、べ、し、○判、事、ハ、刑、部、省、に、屬、  
たる、職、名、不、て、猶、我、亦、凡、此、時、判、事、あ、り、し、ふ、や、○自、斷、原、本、自、と、旨、不、誤、れ、り、今、  
改、む、○越、國、の、  
越、を、原、本、起、不、  
誤、ま、り、今、叙、紀、  
不、據、る、○阿、倍、  
引、田、臣、の、阿、を、  
河、不、作、ま、り、六、  
年、紀、及、天、智、前、  
紀、不、據、て、改、む、  
海濱、魚、死、而、積、厚、三、尺、許、其、大、如、  
門、智、踰、造、指、南、車、出、雲、國、言、於、北、  
討、肅、慎、獻、生、羆、二、羆、皮、七、十、枚、沙、  
是、歲、越、國、守、河、部、引、田、臣、比、羅、夫、

阿倍臣の孝元、鮎、雀、喙、針、鱗、鱗、長、數、寸、俗、曰、雀、入、  
紀、小、見、迄、たり、  
引、田、の、大、和、國、  
城、上、郡、の、地、名、  
於、海、化、而、為、魚、名、曰、雀、魚、  
○肅慎、欽、明、紀、小、注、せり、○熊、和、名、抄、ふ、熊、似、熊、而、黃、白、和、名、之、久、萬、と、り、此、を、  
大、熊、と、も、黃、熊、と、も、云、松、前、多、く、或、人、を、害、る、と、あり、大、和、本、草、小、上、二、四、字、ア、  
ル、ユ、エ、四、熊、ト、訓、セ、シ、ニ、ヤ、と、云、る、俗、説、之、○智、踰、此、僧、天、智、五、年、紀、に、も、知、由、  
獻、指、南、車、と、り、○指、南、車、古、今、注、ふ、黃、帝、與、蚩、尤、戰、於、琢、鹿、之、野、蚩、尤、作、大、霧、兵、  
士、皆、迷、於、是、作、指、南、車、以、示、四、方、云、々、晉、書、輿、服、志、小、司、南、車、一、名、指、南、車、駕、四、馬、  
其、下、製、如、樓、云、々、刻、木、為、仙、人、衣、羽、衣、立、車、上、車、雖、回、運、而、手、常、南、指、○鉛、の、字、鏡、  
集、易、林、本、節、用、集、等、み、フ、ク、ベ、と、よ、め、て、彼、北、海、に、産、る、針、千、本、も、形、河、豚、に、似、て、  
雀、喙、の、如、き、れ、ば、若、し、針、千、本、ふ、ら、じ、り、舊、讀、エ、ヒ、と、訓、る、其、甚、誤、を、り、今、改、  
む、○庚、申、年、の、或、本、云、至、庚、申、年、七、月、百、濟、遣、使、  
六、年、ふ、り、○義、奏、言、大、唐、新、羅、并、力、伐、我、既、以、義、  
慈、王、の、百、濟、第、慈、王、王、后、太、子、為、虜、而、去、由、是、國、  
三、十、一、世、の、主、家、以、兵、士、甲、卒、陣、西、北、畔、繕、修、城、

連、頰、垂、自、百、濟、還、言、百、濟、伐、新、羅、  
還、時、馬、自、行、道、於、寺、金、堂、晝、夜、勿、  
息、唯、食、草、時、止、或、本、云、至、庚、申、年、  
五、年、春、正、月、己、卯、朔、辛、巳、天、皇、至、  
自、紀、温、湯、三、月、戊、寅、朔、天、皇、幸、吉、  
野、而、肆、宴、焉、庚、辰、天、皇、幸、近、江、之、  
浦、類、聚、國、史、七、  
十、九、ふ、禁、伐、近、  
江、國、滋、賀、郡、比、  
良、山、材、木、○丁、  
亥、十、日、○甲、午、  
十、七、日、○甘、檮、  
丘、允、恭、紀、み、味、  
檀、丘、ふ、作、き、り、  
上、造、須、彌、山、而、饗、陸、奥、與、越、蝦、蟻、

○日本紀標注卷之二十一  
十三

大和国高市郡  
子、在、  
上、此、  
是月遣阿倍臣名

率、船、師、一、百、八、十、艘、討、蝦、夷、國、阿、  
倍、臣、簡、集、飽、田、淳、代、二、郡、蝦、蜺、二、

百、四、十、一、人、其、虜、三、十、一、人、津、輕、  
郡、蝦、蜺、一、百、十、二、人、其、虜、四、人、膽、

賜、祿、蝦、夷、二、十、人、於、一、所、而、大、饗、  
五、色、綵、帛、祭、彼、地、神、至、肉、入、籠、時、

問、兔、蝦、夷、膽、鹿、嶋、兔、穗、名、二、人、進、  
日、斯、利、邊、之、云、  
羊、蹄、集、鮮、小、蝦、  
夷、第、一、高、山、曰、  
斯、梨、藏、都、山、又、  
曰、斯、利、邊、之、云、  
々、羊、蹄、ハ、和、名、

抄、小、董、羊、蹄、菜、  
也、和、名、之、と、注、  
し、万、葉、の、仮、名、  
小、も、借、り、り、○  
細、字、斯、梨、藏、之、  
下、政、所、蓋、蝦、夷、  
郡、乎、と、云、る、七、  
字、何、で、後、人、所、  
妄、加、と、し、て、集、  
鮮、小、削、れ、る、小、  
從、ふ、○、主、政、和、  
名、抄、小、郡、曰、主、  
政、萬、豆、利、古、止、  
比、止、と、注、せ、り、  
○、戊、寅、三、日、○  
坂、合、部、連、石、布、  
を、續、紀、十、九、小、  
坂、合、部、宿、祿、石、

曰、可、以、後、方、羊、蹄、為、政、所、焉、  
之、之、梨、姑、問、兔、此、云、塗、毗、宇、兔、  
隨、膽、鹿、嶋、等、語、遂、置、郡、領、而、  
歸、授、道、與、越、國、司、位、各、二、階、郡、  
領、與、主、政、各、一、階、  
肅、慎、戰、而、歸、  
獻、虜、卅、九、人、  
遣、小、錦、下、坂、合、部、連、石、布、大、仙、下、  
津、守、連、吉、祥、使、於、唐、國、仍、以、陸、道、  
奧、蝦、夷、男、女、二、人、示、唐、天、子、

○日本紀標注卷之二十一  
十四



敷ふ作れり○唐天子、高宗と云、王、  
吳唐、按み吳ハ、伊、  
我ハ近、地、未、錦、  
唐ハ、唐ハ、加、て、吳、吉、  
唐ハ、ハ、書、し、ハ、已、  
今年ハ、ハ、○三、津、之、  
仁賢、紀、ハ、御、津、之、  
子作、れ、ハ、○大、二、  
津、續、紀、ハ、一、ハ、二、  
到、著、築、紫、大、津、海、  
と、ハ、是、ハ、筑、滅、海、  
前、國、博、多、津、ハ、稻、  
て、下、ハ、下、大、津、括、  
と、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、六、  
○母、分、明、舒、州、  
明、紀、ハ、ハ、分、明、二、  
十、三、日、  
會、稽、縣、  
夜、半、  
須、之、  
行、到、  
餘、姚、縣、  
所、乘、大、船、  
急、越、  
十、日、  
一、日、  
行、到、  
越、州、  
之、底、  
閩、  
諸、調、度、之、物、留、著、彼、處、閩、  
漢、長、直、姓、氏、錄、ハ、洩、ナリ、長、直、ハ、皇、極、紀、ハ、見、也、ナリ、  
○括、  
州、唐、書、地、理、志、ハ、江、南、道、處、州、縉、雲、本、括、州、永、嘉、郡、云、々、  
○越、州、會、稽、縣、唐、書、地、理、  
志、ハ、江、南、道、越、州、會、稽、郡、と、ハ、リ、  
○餘、姚、縣、  
同、書、ハ、越、州、餘、姚、縣、と、ハ、リ、  
○底、ハ、官、底、ナリ、

有、此、事、と、ハ、リ、及、諸、調、度、之、物、留、著、彼、處、閩、  
之、舊、讀、ハ、ワ、イ、十、月、一、日、行、到、越、州、之、底、  
ワ、イ、シ、ク、と、ハ、メ、ナリ、  
○漢、長、直、姓、氏、錄、ハ、洩、ナリ、長、直、ハ、皇、極、紀、ハ、見、也、ナリ、  
○括、  
州、唐、書、地、理、志、ハ、江、南、道、處、州、縉、雲、本、括、州、永、嘉、郡、云、々、  
○越、州、會、稽、縣、唐、書、地、理、  
志、ハ、江、南、道、越、州、會、稽、郡、と、ハ、リ、  
○餘、姚、縣、  
同、書、ハ、越、州、餘、姚、縣、と、ハ、リ、  
○底、ハ、官、底、ナリ、  
十、月、十、五、日、乘、驛、入、京、二、十、九、日、  
馳、到、東、京、在、  
子、相、見、問、說、之、日、本、國、天、皇、平、安、  
以、不、使、人、問、謹、答、之、事、卿、等、好、在、以、平、  
安、天、子、問、曰、皇、上、憐、重、亦、得、好、在、天、  
使、人、謹、答、天、皇、事、亦、得、好、在、  
子、問、曰、皇、上、憐、重、亦、得、好、在、  
天、子、問、曰、皇、上、憐、重、亦、得、好、在、  
陸、奥、の、津、輕、ハ、天、地、萬、民、無、事、天、子、問、曰、皇、上、憐、重、亦、得、好、在、  
何、ら、ハ、然、ハ、津、夷、國、有、何、方、使、人、謹、答、曰、此、等、治、  
輕、ハ、濁、音、マ、テ、天、子、問、曰、蝦、夷、幾、種、使、人、謹、答、曰、東、北、  
都、加、留、ハ、清、音、有、三、種、遠、者、蝦、夷、都、加、留、次、者、鹿、蝦、夷、  
ハ、近、者、名、熟、蝦、夷、今、此、熟、蝦、夷、每、

在地名ふるべし歳入貢本國之朝天子問曰其國  
 鹿蝦夷の東有子深山之中止住樹極理奇恠使  
 の極之濱松物天子問曰國有屋舍使人食肉存活  
 語四ふ何らえ之朕見蝦夷身面之異極理奇恠使  
 ひをもふぎぬ人遠來辛苦退在館裏後更相見  
 ざりてふ何く人遠來辛苦退在館裏後更相見  
 までふつりし云々○熟蝦夷按ふ鹿熟い我ふ交える規疎を以て名は多し  
 ○其国有五穀云々按ふ其国の上ふ落字何り是れ渡嶋松指せりけむ鹿蝦夷  
 以內當時五穀及屋舎のふりし理何らめや○奇  
 恠原本奇々喜み作り通證ふ改たるまはとがふ  
 朔有冬至之會十一月朔一日朝有冬至之會會日  
 續紀九ふ天皇亦親所朝諸蕃之中倭客取勝後  
 御大安殿受冬由日出韓智興倫而不復檢十二月  
 至賀辞云々叔三日韓智興倫而不復檢十二月  
 皇国ふ朝且讓我客客等獲罪唐朝已決流罪枉  
 冬至賀たる前流智興於三千里之外客中  
 ハ同卅八延曆伊吉連博德奏因即免罪事了後  
 三年十一月朔勅旨國家來年必有海東之政汝

勅日十一月朔等倭客不得東歸遂西京幽置  
 且冬至者是歷別處閉戶防禁不許東西困苦經  
 代之希遇而王年難波吉士男親書曰向大唐大  
 者之休祥也朕使觸鳴覆副使親觀天子奉示蝦  
 不德得值於今夷於三箭八十獻于天子  
 思行慶賀共悦弓三箭八十獻于天子  
 嘉辰云々類聚國史七十四延曆廿二年十一月朔旦冬至皇太子及百官表賀云  
 々弘仁十三年十一月朔旦冬至百官奉賀云々西宮記十一月朔且冬至條一  
 日早且内膳供忌火御飯御出前公卿進賀表内侍出居東階上大臣以下列立大  
 臣就案捧笏取函自案北登授内侍天皇御出云々政事要略廿五朔且冬至紫宸  
 殿裝束條ふ當日平朝女官揚御隔子男官自日華門參入昇自殿東階奉仕裝束  
 如常但高御座巽角立倚子一脚為皇太子座從南東一間至于第四間又從母屋  
 東一間迄于其北立同倚子足親王公卿座也云々史記歷書十一月甲子朔且  
 冬至己詹其更以七年為大初元年云々○西京唐書地理志云關内道上都初曰  
 京城天寶元年曰西京○難波吉士原  
 本士七出ふ誤れり狀紀ふ撰て改む  
 庚寅十五日○  
 孟蘭盆經集解

庚寅詔群臣於京内諸寺勸講孟

小晋、竺法護譯  
 云、使報七  
 世父母孟蘭盆  
 經、目蓮比丘  
 見亡母生餓鬼  
 中、佛言、汝母罪  
 重、至七月十五  
 日、當為七代父  
 母現在、父母厄  
 難、中者具百果  
 以著盆中、供養十方大德、佛勅、眾僧皆為施主、咒願七代、父母、行禪定、意、然後受食、  
 是時目蓮、母得脱一劫餓鬼之苦云々、○嚴神、祝紀、小、杵築神宮也、嚴者嚴重之義、  
 也、○於友郡、和名抄、出雲國郡名、意字とあはば、友、予の誤、あるべし、○言屋  
 社、式、小出雲國、意字郡、揖夜神社、風土記、小、伊布夜、社、よ作と、今、揖夜村、向、土  
 人、之、イヤと呼  
 之、○市司、職員  
 令、小、市司、正一  
 人、掌財貨交易  
 蘭盆經、使報七世、父母、是歲、命出  
 雲國、造、關、修、嚴神之宮、狐、嚙、斷於  
 友郡、役、丁、所、執、葛、末、而去、又、狗、嚙  
 置、死、人、手、臂、於、言、屋、社、伊、浮、瑯、天  
 子、崩  
 又、高麗、使人、持、羆、皮、一、枚、稱、其、價  
 曰、綿、六十斤、市司、咲、而、避、去、高麗

器物、真偽、度量  
 輕重云々、○畫  
 師、子、麻呂、の、歸  
 化、の、人、ある、べ  
 し、天武紀、小畫  
 師、音、構、續紀、六  
 小、畫師、忍勝、姓、改、為、倭、畫師、同、廿二、小、畫師、祖、足、等、十七、人、賜、御、杖、連、此  
 畫師、姓氏、録、ふ、見、色、ぎ、れ、ど、蕃、種、之、原、本、子、字、を、脱、せ、り、祝、紀、に、據、る

六年春正月壬寅朔高麗使人乙  
 相賀取文等一百餘泊于筑紫三  
 月遣阿陪臣名率船師二百艘伐  
 肅慎國阿陪臣以陸奧蝦夷令乘  
 己船到大河側於是渡嶋蝦夷一  
 大河通證、小、三  
 戈圖會を引て、

石川河ふ當た

仕官の官を原  
本官に誤り

貪嗜ハ、古言ハ  
ト聞おれじ、  
例を見ず

十餘、屯聚海畔、向河而營、營中、二  
人、進而急叫曰、肅慎船師多來、將  
殺我等之、故願欲濟河、而仕官矣、  
阿倍臣遣船、喚一至、兩箇、蝦蟇、問賊  
隱所、與其船數、兩箇、蝦蟇、便指隱  
所、曰、船二十餘艘、即遣使喚而不  
肯來、阿倍臣乃積綵帛兵鐵等、於  
海畔、而令貪嗜、肅慎乃陳船師、擊  
羽於木、舉而為旗、齊棹近來、停於

單衫、和名抄ふ、  
衣無裏曰單、比  
止閑岐沼、万葉  
十二、小、櫛、之、一、  
重衣裏毛無○  
弊賂弁嶋、蝦夷  
地の輿地を見  
るふ、エトロフ、  
またヘルタル  
ベト云、地名何  
之弊賂弁度嶋  
之別也ハ別名  
の脱○能登  
臣記の中卷み、  
大入杵命者能  
登、臣之祖也○  
戊申八月○百  
高座、僧々座

淺處、從一船裏、出二老翁、廻行、熟  
視所積、綵帛等物、便換著單衫、各  
提布一端、乘船還去、俄而老翁更  
來、脱置換衫、并置提布、乘船而退、  
阿倍臣遣數船、使喚不肯來、復於  
弊賂、辨嶋、食頃、乞和、遂不肯聽、弊  
弁度嶋、據已、柵戰、于時能登、臣馬  
身龍、為敵、被殺、猶戰、未倦之間、賊  
被殺已、妻子、夏五月、辛丑朔、戊申、

とらふるに、圖  
書式子見よた

○衲袈裟、和  
名抄ふ、衲袈裟  
字作納、俗云能  
不、一云太比、印

本衲字或落、サリ、今古本子據る、下學集子、衲袈裟、納綴、集義、衲衣亦同意、納通、作  
衲也、榮花物語、音樂、み、の、み、け、さ、あ、ど、ハ、も、ろ、み、し、り、此、九、び、の、御、と、う、の、互  
み、と、心、ざ、し、云、々、猶、納、袈、裟、の、製、ハ、法、鉢、漿、束、抄、み、見、よ、た、り、原、本、衲、を、納、み、作、き  
ミ、今、類、聚、國、史、み、從、ふ、○、仁、王、般、若、續、紀、十、五、講、仁、王、經、於、朝、堂、及、畿、内、七、道、諸、國、  
類、聚、國、史、百、七、十、七、天、長、二、年、閏、七、月、令、宮、中、左、右、五、畿、内、七、道、諸、國、講、說、仁、王、護  
國、般、若、經、帝、王、編、年、紀、延、曆、二、十、二、年、條、み、摩、訶、般、若、波、羅、密、經、一、部、三、十、卷、云、々、  
扱、仁、王、會、南、殿、百、座、の、事、ハ、西  
宮、記、江、次、第、等、み、見、よ、た、り

漏尅、天智紀、み、  
置漏尅於新臺、  
始打候時、動鐘  
鼓、始用漏尅、此

高麗、使人、乙相、賀取文等、到難波、

館、是、月、有司、奉勅、造、一、百、高、座、一

百、衲袈裟、設仁王般若之會

又皇太子、初造漏尅、使民知時、又  
阿倍引田、臣、關、獻、夷、五、十、餘、又、於

漏尅者、天皇為  
皇太子時、始新

所製造也、職員  
今陰陽寮に漏

尅博士二人、掌  
率守辰丁、伺漏

尅之節、守辰丁二十人、掌伺漏尅之節、擊鐘鼓、扱此漏尅の製の、何くれに記した

るが、頼てつらく、按み、昼夜十二時を、四十八尅に分、日の長短を拘らむ、一時を

四尅に定め、扱時尅を同ふ法ハ、銅壺に水を湛、銅箭を四十八に刻み、一三四

一五、二三、四一、二三四と、次第したる、扱壺中み立て、管より水を漏し、箭の頭を出

れを以て、時尅を斗る、此箭一歳四十八枚をて、七日半をて、其時候に合、代

ふ、志りる小職、原抄述解、み、む、む、昼夜百尅の説られど、非あり、若、百尅とせば、  
事實不符、ざるの、こ、なら、ず、一時八尅三々の不盡を生じ、い、く、に、と、も、為、る、事、叶  
て、ば、凡、一、時、四、尅、と、し、て、昼、夜、合、て、四、十、八、尅、あ、り、し、證、を、云、む、頼、政、集、み、子、一、ツ  
と、今、や、と、す、ら、む、雲、の、う、へ、の、月、を、見、る、み、も、忘、ら、れ、ぬ、り、な、伊、勢、物、語、み、を、む、み  
人、み、志、ぶ、め、て、福、ひ、と、つ、む、り、み、男、の、許、に、來、た、り、源、氏、神、み、み、り、し、と、た、づ  
ね、み、り、き、て、寅、一、つ、と、申、な、り、空、穗、物、語、因、讓、み、た、つ、の、一、て、む、む、り、み、す、さ、く  
院、み、云、々、三、代、實、錄、十、九、二、改、已、一、刻、用、辰、四、刻、建、礼、門、院、右、京、大、夫、集、み、更、ぬ、る

石上池邊、作須彌山、高如廟塔、以

饗肅慎四十七人、又舉國百姓、無

故持兵、往還於道、國老言百濟國

失所之相乎

ほど、丑ふたのむりてふやと、思ふかどふ云々、拾遺集み、人心、うしみつ今ハた  
 の海じよ、大鏡七、子ふつとそりして、かくた月せられ、袂衣四、ふんしろう  
 のうちと、むとりご九、後ひつ、丑よつと申す、西宮記、佛名條、封限、延喜十九  
 初、自亥二、至子丑、後夜、自丑一至、同四、延長三、初、自亥一、至子三、後、自子四、至丑四  
 云々、禁秘抄、上古、隨陰陽寮、漏刻、奏之、近代、指計、藏人、仰之、丑、稅、以後、為明日、分  
 如此、くたくしく、記せる、由、多、ハ、明治と、改、する、二、三年前、より、洋製、の時、器、を  
 用、る、事、の、始、り、て、凡、四、五、年、を、出、給、る、ハ、国内、家々、ハ、行、渡、る、状、思、へ、バ、今、よ、て  
 百年、許、も、經、たら、む、ハ、古、き、時、器、の、用法、と、世、ハ、絶、果、ぬ、べ、し、と、思、ひ、を、あり、て  
 かく、ハ、記、し、お、ける、に、お、む、扱、世、下、で、て、の、後、ハ、彼、う、し、み、つ、杯、云、へ、る、を、バ、丑  
 二、ツ、丑、三、ツ、杯、の、刻、と、云、事、も、志、れ、て、物、を、ご、く、心、細、き、事、の、異、名、ハ、や、う、に  
 や、思、ひ、た、ど、る、ら、む、と、千、歳、の、末、を、れ、し、を、か、り、て、筆、の、因、ハ、云、ふ、の、み、扱、支、那、国  
 小、ハ、以、百、二十、為、度、とし、漢、書、哀、帝、紀、ハ、見、た、れ、バ、其、製、も、異、か、り、け、む、是、を、黄  
 帝、ハ、觀、漏、水、制、と、隋、書、天、文、志、ハ、記、せ、り、○阿、倍、引、田、臣、ハ、比、羅、夫、ハ  
 事、疑、ハ、な、し、○石、上、池、大、和、志、ハ、在、山、邊、郡、磯、上、村、今、呼、大、将、軍、池、  
 乙、卯、十、六、日、原、  
 本、已、卯、ハ、作、れ、  
 通、證、ハ、一、本、  
 により、て、改、  
 相、賀、取、文、等、罷、歸、又、都、毗、羅、人、乾

秋七月庚子朔乙卯高麗使人乙  
 相賀取文等罷歸又都毗羅人乾

るに從ふ○都  
 毗羅人ハ上ハ  
 見、返、た、る、都、貨、  
 邏、ハ、お、お、じ、原、  
 本、毗、と、就、ハ、誤、  
 たり、釈、紀、ハ、據、  
 改、む、○道、頭、道、  
 ハ、天、智、元、年、紀、  
 鼠、産、於、馬、尾、  
 占、し、僧、之、○人、  
 春秋、智、ハ、孝、德、  
 天、皇、大、化、三、年、  
 紀、ハ、金、春、秋、ハ、  
 作、れ、り、新、羅、王、  
 之、○蘓、定、方、ハ、  
 唐、書、百、一、ハ、者、  
 蘓、烈、字、定、方、以、  
 討、百、濟、○使、擊、  
 百、濟、亡、之、東、  
 国、通、鑑、百、濟、  
 美、慈、王、八、年、  
 條、ハ、此、事、ハ、  
 〇、城、女、和、名

豆波斯達阿欲歸本土求請送使  
 日願後朝於大國所以留妻為表  
 乃與數十人入于西海之路高麗  
 顯日本世記曰七月云云春秋  
 大將軍蘓定方之使擊百  
 濟亡之或曰百濟自亡由君太夫  
 之無道擅奪國柄誅殺賢  
 故召斯禍矣可不慎歟可不慎  
 注云新羅春秋智不得願於  
 臣蓋金故亦使於唐捨俗衣冠  
 媚於天子投禍於隣國而構斯  
 行也

抄小婦人七太子夜米と注し、万葉十五小多和也女と何る小撮て訓義七知る  
べし、字書と老人曰婦曰媛○誅殺賢良、東国通鑑、百濟義慈王十六年條小、百濟  
王殺諫臣佐平成忠、先是王率官人、淫酗耽樂、成忠極諫、王怒囚之、由是無敢言  
者、成忠不食、臨死上書云々○蓋金、天智紀小、高麗大臣蓋金、終於其国云々  
庚申年ハ、即今伊吉連博徳書云、庚申年八月、百  
年なぞ○放客、濟己平之後、九月、十二月、放客本  
原本客を容小國、十九日、發自西京、十月十六日、  
作より、釈紀小還、到東京、始得相見、阿利麻等五  
攝て改む○阿人、十一日、爲將、軍蘇定方等、  
利麻、上小東漢、所捉、百濟王、以下、太子、  
長直阿利麻と十三人、大佐平沙宅、千福隆等、諸王  
何り○百濟王以下、三人、大佐平沙宅、千福隆等、諸王  
以下、太子隆等、朝堂急、引、趨、向、天子、勞、二十、四、日、發  
諸王云々、東国、前、放、著、十九日、賜、勞、二十、四、日、發  
通鑑、百濟義慈、自、東、  
王二十年、條小、京、  
百濟王知不免、嘆曰、悔不用成忠之言、以至於此、王子隆、移書、唐將、乞  
退兵、未幾、唐羅軍圍都城、四道齊進、云々とある也、今年小當きり、

癸卯五日○沙  
弥、誦、名、義、集  
小、南、山、沙、弥、別  
行、篇、云、此、翻、息  
慈、謂、息、世、深、之  
情、以、慈、濟、群、生  
也、云々、元、亨、釈  
書、乘、蓮、傳、小、国  
俗、剃、髮、不、全、梵  
儀、有、妻、子、者、在  
家、称、沙、彌、云々、之  
日本、後、紀、八、小、怒  
僧、三、百、人、沙、彌、  
五、十、人、云々、○  
唯、類、神、武、紀、又  
見、正、たり、○鬼  
室、天、智、紀、小、鬼  
室、集、斯、と、云、也  
據、任、射、岐、山、  
任、或、本、云、北、  
達、率、餘、自、

九月、己、亥、朔、癸、卯、百、濟、遣、達、率、  
沙、彌、覺、從、等、來、奏、曰、或、本、云、逃、  
年、七、月、新、羅、恃、力、作、勢、不、親、於、隣、  
引、搆、唐、人、傾、覆、百、濟、君、臣、摠、俘、略、  
無、唯、類、  
唐、本、云、今、年、七、月、十、日、大、  
唐、蘇、定、方、率、船、師、軍、尾、資、  
唐、蘇、定、方、率、船、師、軍、尾、資、  
津、新、羅、王、春、秋、智、率、兵、馬、軍、于、  
受、利、城、同、月、十、三、日、始、破、王、於、  
我、王、城、同、月、十、三、日、始、破、王、於、  
怒、受、利、山、百、濟、之、東、境、也、  
城、怒、受、利、山、百、濟、之、東、境、也、  
是、西、部、恩、率、鬼、室、福、信、赫、然、發、憤、  
據、任、射、岐、山、  
任、或、本、云、北、  
達、率、餘、自、

見也、姓氏録、百濟公、因鬼神感、和之義、命氏、謂鬼室、廢帝天、平寶、字五年、改、賜百濟公、姓、○發憤、源氏、少女、みよろづ、成、おぼしむ、つか、ま、て云々、旁注、○發憤、と、あり、○培通、證、み、杖、建、之、義、也、と、云、り、字、書、み、培、同、棒、○佐平、ハ、百濟、官、十、六、品、の、高、官、あり、重、云、る、ハ、福、信、を、美、稱、と、り、片、縣、和、名、抄、み、方、縣、み、作、と、り、

進、據、中、部、久、麻、怒、利、城、或、本、云、都、岐、留、山、各、營、一、所、誘、聚、散、卒、兵、盡、前、役、故、以、培、戰、新、羅、軍、破、百、濟、奪、其、兵、既、而、濟、兵、翻、銳、唐、不、敢、入、福、信、等、遂、鳩、集、同、國、共、保、王、城、國、人、尊、曰、佐、平、福、信、佐、平、自、進、唯、福、信、起、神、武、之、權、興、既、亡、之、國、

冬、十、月、百、濟、佐、平、鬼、室、福、信、遣、佐

同、郡、ト、大、唐、ト、云、郷、名、も、な、り、○余、豊、障、ハ、舒、明、紀、ミ、豊、章、ト、作、リ、皇、極、紀、ミ、餘、豊、み、作、り、次、み、ハ、豊、璋、み、作、り、或、本、云、佐、平、貴、也、ま、り、○正、珍、原、智、達、率、正、珍、也、唐、人、率、我、我、發、賊、來、本、珍、を、改、み、作、れ、今、紀、紀、ミ、蕩、搖、我、疆、場、覆、我、社、稷、俘、我、君、臣、從、み、○發、賊、詩、小、雅、に、去、其、螟、螽、及、其、蠹、賊、注、み、食、根、曰、發、食、節、曰、賊、臣、大、佐、平、の、臣、百、濟、王、義、慈、其、妻、恩、古、其、子、隆、等、大、を、原、本、み、巨、其、臣、大、佐、平、千、福、國、弁、成、孫、登、等、王、み、誤、れ、凡、五、十、餘、人、於、秋、七、月、十、三、日、爲、證、み、改、た、る、に、蘇、將、軍、所、捉、而、送、去、於、唐、國、蓋、是、從、み、但、大、佐、平、無、故、持、兵、而、百、濟、國、遙、賴、天、皇、護、と、云、を、見、す、按、之、

平、貴、智、等、來、獻、唐、俘、一、百、餘、人、今、美、濃、國、不、破、片、縣、二、郡、唐、人、等、也、又、乞、師、請、救、并、乞、王、子、余、豊、障、曰、



北史百濟傳  
に左平五人一  
品とのまば、其  
中弘主たる奴  
云、加○千福園  
の子を、原本の  
子に作れ、今  
釈紀に從ふ○  
五十餘人、原本  
人を落せり、集  
解に補るるに從  
ふ、又於秋を倒  
せ、是亦集解  
に改たるに從  
ふ○忠勝、孝徳  
紀に、百濟、君豊  
璋、其弟塞城、忠  
勝と名す○塞

念、更、鳩、集、以、成、邦、方、今、謹、願、迎、百  
濟、國、遣、侍、天、朝、王、子、豐、璋、將、為、國、  
主、云、云、詔、曰、乞、師、請、救、聞、之、古、昔、  
扶、危、繼、絕、著、自、恒、典、百、濟、國、窮、來、  
歸、我、以、本、邦、喪、亂、靡、依、靡、告、枕、戈、  
嘗、膽、必、存、樣、救、遠、來、表、啓、志、有、難、  
奪、可、分、命、將、軍、百、道、俱、前、雲、會、雷、  
動、俱、集、沙、唳、翦、其、鯨、鯢、紓、彼、倒、懸、  
宜、有、司、具、為、與、之、以、禮、發、遣、云、云

上、皇、極、紀、に、塞  
上、恒、作、惡、云々、  
是、ハ、上、に、引、  
る、塞、城、と、同、人、  
ある、べし○庚  
寅、廿、四、日、○續  
麻、郊、詳、あら、む、  
駿、河、國、に、て、尋  
ぬ、べし○科、野  
國、ハ、信、濃、國、に  
て、○巨、坂、ハ、信  
濃、國、伊、那、郡、よ  
り、美、濃、國、惠、奈  
郡、に、越、ち、名、高  
き、御、坂、あり○  
蒼、天、字、の、如、し、  
爾、雅、に、春、為、蒼  
天、と、云、呂、氏、春

送、王、子、豐、璋、及、妻、子、與、其、叔、父、忠  
勝、等、其、正、發、遣、之、時、見、于、七、年、或  
本、云、天、皇、立、豊、璋、為、王、立、  
塞、上、為、輔、而、以、禮、發、遣、馬、十、二、月  
丁、卯、朔、庚、寅、天、皇、幸、于、難、波、宮、天  
皇、方、隨、福、信、所、乞、之、意、思、幸、筑、紫  
將、遣、救、軍、而、初、幸、斯、備、諸、軍、器、是  
歲、欲、為、百、濟、將、伐、新、羅、乃、勅、駿、河、  
國、造、船、已、訖、挽、至、績、麻、郊、之、時、其、  
船、夜、中、無、故、艫、舳、相、反、衆、知、終、敗、  
科、野、國、言、蠅、群、向、西、飛、踰、巨、坂、大

秋ふ、東方、曰蒼、  
 天あどの説ハ、  
 用らむ○童謡、  
 成ワザツタと、  
 りめるハ俳優、  
 誰のワザハて、  
 神の御心より、  
 其事を童とし、  
 て、未然ハ謡と、  
 しむるなり、扱、  
 此ハ見也たる、  
 六十四字ハ昔、  
 より熟よみえ、  
 たる人ハ私、  
 記ハ二三四五一六八と、倒讀せしりども、猶通がたきゆゑ、大方の人ハ是ハふらひ、彼野馬臺の詩と云、のろ、異き状ハもみざるトハそれト、是ハと宜ト聞  
 返たるものなし、年治按ハ、是ハ倒讀すべきとのハあら祢ハ、文字の儘ハよみ  
 て、後考を俟むトハ、被私記の説も、用、たけれど、千年ハ近き古書ハをバ、傍ハ

十圍許、高至、蒼天、或、知救軍、敗績  
 之、恠、有、童謡、曰、摩比邏矩都能、俱  
 例、豆、例、於、能、幣、陀、乎、邏、賦、俱、能、理  
 歌、理、歌、美、和、陀、騰、能、理、歌、美、烏、能  
 能、理、歌、理、歌、美、烏、能、騰、和、與、騰、美、烏、能、陸、陀、烏、邏、賦、俱

引出べし、○摩比邏矩都能の、摩比ハ、廻、ハ、マ、ハリを云、源氏小蝶ハ山のさね  
 より、こきゆひて云々抄ハまゑること注セリ、邏ハ助辞、矩都能ハ來ノ之ハ久  
 人セツトよめるハ、菅家万葉ハ、夜深鳴手五十人、趨往、濫、又五十人、禮、歎、色、之、不  
 變、藝、留、○俱例豆例ハ、後、つれば、の、オを、略、者、ハ、含、め、て、句、末、ハ、者、を、含、て、省、け、る  
 と、古歌の一、格、み、て、万葉ハ、例、多、し、以、上、二、句、の、意、ハ、百、濟、を、疾、救、さ、る、ハ、譬、バ、も  
 路、ハ、行、み、過、速、の、道、より、行、如、く、其、機、會、ハ、後、つ、ま、む、と、一、此、摩、比、邏、矩、都、能、を、私  
 記、ハ、翻、云、都、摩、比、邏、矩、能、妻、開、也、と、注、セ、て、開、ト、ハ、田、を、開、發、の、意、ハ、め、れ、ど、開、と、  
 の、み、云、て、田、を、開、ト、ハ、聞、込、バ、且、田、を、バ、墾、ト、ク、發、ト、ハ、云、べ、き、を、ヤ、又、開、之、ト、之、  
 の、語、格、も、ハ、次、の、俱、例、豆、例、を、翻、豆、俱、例、例、作、也、言、女、之、作、田、也、と、注、セ、リ、○  
 於、能、幣、陀、乎、邏、賦、俱、能、理、歌、理、歌、ハ、已、方、田、を、み、て、邏、ハ、助、辞、ナ、リ、此、於、を、契、冲、ダ  
 松、の、誤、み、て、丘、上、田、あ、と、云、る、ハ、耳、考、の、や、う、な、れ、ど、若、然、ら、む、ハ、次、ハ、二、所  
 まで、烏、能、陸、陀、と、ハ、左、右、ハ、從、む、が、た、し、能、を、原、本、社、ハ、作、れ、り、今、秋、紀、ハ、據、て、改、む、賦、俱  
 及、バ、ざ、れ、ど、左、右、ハ、從、む、が、た、し、能、を、原、本、社、ハ、作、れ、り、今、秋、紀、ハ、據、て、改、む、賦、俱  
 能、理、ハ、貪、賭、ハ、源、氏、朝、自、ハ、ま、ろ、む、さ、ん、も、ふ、く、つ、け、り、れ、ど、何、る、成、抄、ハ、貪、  
 也、と、注、し、遊、仙、窟、ハ、貪、生、茂、フ、ク、ツ、ケ、ビ、ト、と、よ、み、日、本、靈、異、記、難、字、記、等、に、貪、  
 フ、ケ、ル、と、注、せ、れ、バ、貪、る、を、古、言、ハ、フ、ク、と、云、て、賭、ハ、物、を、か、け、て、取、る、意、ナ、リ、歌  
 理、賦、ハ、雁、之、み、て、以、上、二、句、ハ、百、濟、を、田、ハ、喻、ハ、唐、羅、の、賦、を、雁、ハ、喻、ハ、已、方、田、の  
 稻、を、貪、賭、む、と、あり、私、記、ハ、於、能、幣、陀、乎、謂、小、野、田、也、と、云、て、邏、を、次、ハ、送、テ、邏、賦

俱能理歌理賦、翻曰鴉理歌理能俱避賦、雁之食也。と注せり、按ふ鴈々からむ  
 且、鴉理歌理如何。○美和陀騰能理歌美ハ、酒田と賭釀あり、酒をミワとよめる  
 ハ、和名抄小神酒和語云美和、夫木集七小、神山のかしこのむらで、打た、た、酒  
 ずる祈る月ハ來ふらで、謠意ハ此田の稻え、酒を釀むれうみ、賭取たてとて、百  
 濟の国民セ、己ガ物みする私意あり、私記ハ翻云美騰和陀能、所名也、歌理、鴈也  
 と注し、句末の美ハ次、句の頭ハ移し、り、年治云、こと、このと云、地名有るを  
 聞ッバ、○鳥能陸陀鳥邏賦、俱能理歌理賦、上にたかじ、私記ハ美、字を加て、翻云  
 鳥美能陀陸鳥、謂女田也、と注せり、是ハ上の妻開を受たれど、女田と云、事ハか  
 ガ、○甲子騰和與騰美の、甲子の仮名をいゝるふを、思ふ人も多うれど、景行紀  
 の国名ハ、甲斐と書き、頭宗紀壯鹿の訓注ハ、左鳴子加とわれバ、詭バ、からズ、扱  
 甲子ハ、意ハ、カシマシと云、る本語、騰ハ、辞ハ、和ハ、駱、意ハ、ワノクと云、俗ハ  
 ワツと云、おど思ふべし、與騰美ハ、音ハ、ふ意、儀式鼓吹司試生儀ハ、諸鼓鉦  
 相擊天三段與止見天、戰入奴云々、是ハ、唐羅の賊ガ、當と騒き音ハ、奴、雁の事  
 小喻云、私記ハ、甲子、謂太子也、太子者諸子之長也、故云、甲之子也、和與者語也  
 也、注シ、美を次の頭ハ移せり、○鳥能陸陀鳥邏賦、俱能理歌理賦、ハ、上ハ、れ、あ、と  
 是ハ、上の神田と賭釀とある故受て、丘、上田を云々、と、打ハ、し、結べる、古歌の  
 一跡ハ、原本陸陀階ハ、誤れで、秋紀ハ、撰て改む、此語を荷田翁ガ、  
 船、惟ハ、して、字の儘ハ、解ハ、れ、ど、是、とも、聞、こ、ざ、れ、バ、此、ハ、洩、し、ぬ

壬寅六日 ○御  
 船、南宋書高宗  
 紀ハ、御船發温  
 州 ○甲辰八日  
 ○大伯海、和名  
 抄ハ、備前国郡  
 名邑久ハ、於保  
 久と注シ、国造  
 本紀、美作と上  
 道との間ハ、大  
 伯、国造ハ、れ、バ、  
 備前の地名ハ、  
 大、伯、故、オ、ホ、ク、と、い、ひ、べ、き、故、知、る、べ、し、但、伯、字、を、ク、と、よ、め、る、ハ、伯、も、叔、ハ、對、  
 て、奥、の、意、ハ、ま、バ、之、○大田姫皇女ハ、天智天皇の御子ハ、天武二年、紀ハ、納、皇、  
 后、姊、大田皇女為妃、とあるハ、前ナマシ、後、追、次、て、書、ら、る、此、紀、の、例、あ、る、を、  
 や、此、に、大田、皇女、御、腰、妊、み、て、御、供、ハ、仕、奉、マ、シ、お、と、え、る、べ、し、○大、伯、皇、女、天、武、  
 紀、ハ、或、ハ、大、來、皇、女、又、作、皇、秋、紀、ハ、引、々、弘、仁、私、記、ハ、大、來、此、云、於、保、支、と、い、れ、  
 ば、素、地、名、ハ、縁、た、る、御、名、な、れ、バ、大、伯、と、よ、む、べ、し、○庚、戌、十、四、日、○熟、田、津、万、葉、  
 ○日本紀標注卷之二十一  
 二十五

七年春正月、丁酉朔壬寅、御船西  
 征、始、就、于、海、路、甲、辰、御、船、到、于、大  
 伯、海、時、大、田、姫、皇、女、産、女、焉、仍、名、  
 是、女、曰、大、伯、皇、女、庚、戌、御、船、泊、于  
 伊、豫、熟、田、津、石、湯、行、宮、  
 云、熟、田、津、此、  
 云、伊、豫、熟、田、津、此、

十二子柔田津爾、舟乘將為趾間之苗云々○石湯行宮、和名抄  
小、伊豫國郡名温泉、湯と注せ、此湯の事舒明紀に注しつ

庚申廿五日○  
娜大津ハ、筑前  
國博多、津、  
仲哀紀ハ、灘縣  
と、向るに同地  
と、委、彼處ハ注  
せり○磐瀨兵  
部式ハ、筑前國  
驛馬、石瀨五疋  
と、向り、即那珂  
郡ハ、博多ヨリ遠  
表之軍政、按ハ  
七、百濟王敬福、  
稷、遠、迎、豐璋、  
癸卯九日○朝  
倉橋廣庭宮、和

三月丙申朔庚申、御船還、至于娜

大津、居于磐瀨行宮、天皇改此名

曰長津、夏四月、百濟福信、遣使上

表、乞迎其王子紇解、釋道顯、日本

福信、獻書、祈其君紇解、於東朝、或

云、四月、天皇、遷居于朝倉宮

五月乙未朔癸卯、天皇遷居于朝

倉橋廣庭宮、是時、新除朝倉社、木

而作此宮之故、神念壞殿、亦見中

由是大倉人、及諸近侍、病死者衆

倉橋、廣庭宮、是時、新除朝倉社、木

而作此宮之故、神念壞殿、亦見中

由是大倉人、及諸近侍、病死者衆

倉橋、廣庭宮、是時、新除朝倉社、木

而作此宮之故、神念壞殿、亦見中

由是大倉人、及諸近侍、病死者衆

倉橋、廣庭宮、是時、新除朝倉社、木

而作此宮之故、神念壞殿、亦見中

由是大倉人、及諸近侍、病死者衆

○日本紀標注卷之二十一

○二十六

名抄ハ、筑前國  
郡名、下座、下都  
安佐久良、上座、  
准上と、向、後  
朝倉を上下ハ  
介置し、座の一  
字に、古名を、負、  
くらや、木の丸と  
おきて、筑前國上  
し、ゆ、り、る、を、  
十訓抄ハ、此歌催  
の、て、式、ハ、同  
郷も、向れ、右、の  
ざれば、用、ず、本  
崩於、筑紫行宮、  
く定、て、よ、○大  
丁巳廿三日○  
耽羅ハ、繼體紀

丁巳耽羅始遣王子阿波伎等貢

小見正より、東  
 國通鑑云、耽羅  
 在南海中、古初  
 無人物、有三神  
 從地湧出、長曰  
 良乙那、次曰高  
 乙那、三曰夫乙  
 那云々、耽羅或  
 稱耽牟羅、北史  
 九十四云、皇國  
 の事を記して、  
 南堂耽羅國、經  
 都斯麻國、迤在  
 大海中云々、按  
 之、耽羅ハ百濟  
 の屬嶋なり○辛酉年ハ今年あり○草直詳あらざ○大倭天報  
 の道按み海外國ハみしつより、天ガ論れど、天ハ神の坐事をおらぞ、故神驗と  
 云ハ、皇國ハのみあるものと思ひて、爰ハ大  
 倭天と云るある甚々愛たくをかしけれ

丁巳廿四日天  
 皇崩、水鏡云、年  
 六十八○奉徒  
 原本徒を徒ハ  
 誤れ、今改む  
 ○有鬼云々、按  
 此是ハ朝倉神  
 の御所為み、  
 先ハ社木を伐  
 し、時ハ神怒の  
 未解、路ハざ  
 し、みみそ○己  
 巳七日○口號  
 繼體紀に、口唱  
 とよめり、口つ  
 歌の千の略加  
 きたる奈り○  
 枳瀝我梅能ハ、

六月伊勢王薨、秋七月甲午朔丁  
 巳、天皇崩于朝倉宮、八月甲子朔  
 皇太子奉徙天皇喪、還至磐瀨宮、  
 是夕於朝倉山上、有鬼著大笠、臨  
 視喪儀、衆皆嗟恠、冬十月癸亥朔  
 己巳、天皇之喪歸、就于海、於是皇  
 太子泊於一所、哀慕天皇、乃口號  
 曰、枳瀝我梅能、姑哀之、枳瀝羅爾  
 婆底底威底、舸矩野姑悲武謀、枳

○日本紀標注卷之二十一

二十七

君日之みて、目  
とハ面を云、  
万葉五み此等  
國爾須疑加且  
奴可母意夜能  
戀しきからふの  
故保斯苦阿利家武  
て、原本婆と婆み誤まり、釈紀み據りて改む○舸矩野姑悲武謀ハ如此哉將戀み  
曾將待君之目乎保利と向り君とハ天皇を申せり○乙酉廿三日  
戌戌七日○飛  
鳥川原ハ大和  
國高市郡ふて  
志み飛鳥村河  
原村何て相  
並り○續守言人  
原本續を續み酉  
作まど、釈紀

泊于難波

十一月壬辰朔戊戌、以天皇喪殯

于飛鳥川原、自此發哀、至于九日

及天智紀み、唐既云、福信獻唐、倭、  
倭續守言と何故、今存注、其決焉  
るふよりて改む、續姓の人ハ、晋書み續成字孝宗と云、人何れど、續てふ姓を見  
ざればあり○墾田、和名抄近江國、栗本郡郷名み、治田を發多と注せり、此地を



日本紀標注卷之二十一終

日本書紀卷之六十五

西村捨三  
 濱田甚兵衛  
 山内芳秋  
 近藤喜祿  
 廣岡久右衛門  
 山口源兵衛  
 平瀨龜之助  
 野口守敏  
 田中市兵衛  
 馬場幸治  
 玉手弘通  
 小泉清左衛門  
 名越愛助  
 吉田利兵衛  
 進藤嘉市郎  
 和田半兵衛  
 辻滿伴  
 豐田文三郎  
 大浦彌三兵衛  
 龜岡善兵衛  
 山口善五郎  
 辰馬圭助  
 土川茂平  
 椿木莊助  
 古家彌太郎  
 小林之助

上 梓公行 贊 助

西村捨三  
 濱田甚兵衛  
 山内芳秋  
 近藤喜祿  
 廣岡久右衛門  
 山口源兵衛  
 平瀨龜之助  
 野口守敏  
 田中市兵衛  
 馬場幸治  
 玉手弘通  
 小泉清左衛門  
 名越愛助  
 吉田利兵衛  
 進藤嘉市郎  
 和田半兵衛  
 辻滿伴  
 豐田文三郎  
 大浦彌三兵衛  
 龜岡善兵衛  
 山口善五郎  
 辰馬圭助  
 土川茂平  
 椿木莊助  
 古家彌太郎  
 小林之助

即合  
 二十四  
 年

明治二十四年十月一日印刷  
全 年十月五日出版

版權所有

版權登錄

著述者

數 田 年 大 治

大阪市西區北堀江上通壹丁目  
二十八番屋敷

發行者

小 林 之 助

全 西區北堀江裏通壹丁目  
三十六番屋敷

印刷者

松 井 秀 太 郎

立賣堀北通り壹丁目  
八番屋敷

弘 賣

書 肆

名古屋	片野	東四郎
東京	北畠	茂兵衛
全	原	亮三郎
京都	出雲寺	文次郎
全	藤井	孫兵衛
大阪	松村	九兵衛
全	梅原	龜七
全	鹿田	靜七

明治二十四年十月一日



